

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立高槻北高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立）のべ合格者の増加 ・ センター試験にチャレンジする生徒数の増加 ・ 希望進路実現率（自己の第1希望）の向上 ・ 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 ・ ICT稼働率の向上
計画名	坂の上の輝く青春 ～進路実現に向けて～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>【中期的目標】</p> <p>1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る</p> <p>（1）教志コース（教員養成系コース）を定着させる。</p> <p>ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。</p> <p>（2）学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。</p> <p>エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。</p> <p>【本年度の具体的な取組み計画】</p> <p>イ 電子黒板機能付きプロジェクターを活用するなどICTを活用した授業を実施することにより、思考力、判断力、表現力の向上につなげる。</p>
事業目標	<p>①ICT活用による授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入）を強力に進め、「充実した質の高い、わかりやすい授業」「教員の授業力向上」につなげる。</p> <p>②生徒の主体的・協働的な学びを促し、本校生徒の課題（弱点）である思考力・判断力・表現力の伸長を図り、希望である進路の実現につなげる。</p> <p>③「教志コース」（専門コース）における外部講師の講義や生徒の実習報告会等に活用することで、「教志コース」の充実を図り、先生になりたいという進路希望の実現につなげる。</p>
整備した 設備・物品	<p>2・3年生 HR 教室に電子黒板プロジェクタ（17台）…無線LANアダプタ、ケーブル収納ボックスを含む</p> <p>なお、1年生については上記設備を導入済みであり、教育効果を高めている状況である。</p>
取組みの 主担・実施者	<p>主担：授業改革 PT （教頭・首席・教務主任・ICT委員長ほか） 実施者：全教員</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改革 PT による年間計画策定（4月） ・ ICT活用の授業実践（通年）、教科ごとの授業研究（～7月） ・ 本校教諭の実践発表による職員研修（8月） ・ 教職員相互の授業見学（6月・10月） ・ 授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証（9月・1月） ・ PT 及び各教科による本年度総括と次年度の計画案検討（2月）

成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ①国公立大学及び関関同立のべ合格者数 180 名以上 ②センター試験にチャレンジする生徒数 240 名以上 ③第 1 希望の進路目標を達成できた生徒の割合 90%以上 ④授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を 3.15 以上 ⑤学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を 85%以上 ⑥ICT 活用率を前年度より上回ること
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ①国公立大学及び関関同立のべ合格者数 180 名以上 (R1 94 名) …………… (△) ②センター試験にチャレンジする生徒数 240 名以上 (R1 176 名) …………… (△) ③第 1 希望の進路目標を達成できた生徒の割合 90%以上 (R1 73.7%) …………… (△) ④授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を 3.15 以上 (R1 3.2) …………… (○) ⑤学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を 85%以上 (R1 75%) …………… (△) ⑥ICT 活用率を前年度より上回ること (R1 95%) …………… (◎)
事業のまとめ	<p>【結果の推移】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国公立大学及び関関同立のべ合格者数 180 名以上 (H29 138 名 H30 78 名 R1 94 名) (△) ②センター試験にチャレンジする生徒数 240 名以上 (H29 232 名 H30 208 名 R1 176 名) (△) ③第 1 希望の進路目標を達成できた生徒の割合 90%以上 (H29 70.5% H30 71.4% R1 73.7%) …………… (△) ④授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を 3.15 以上 (H29 3.1 H30 3.1 R1 3.2) …………… (○) ⑤学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を 85%以上 (H29 84.5% H30 70% R1 75%) …………… (△) ⑥ICT 活用率を前年度より上回ること (H29 57.4% H30 94% R1 95%) …………… (◎) <p>【まとめ】</p> <p>①②③の結果については3年生のクラス数の減少と大学の入学定員の厳格化の影響があり、目標とした数値に達しなかった。ただし、③については年を追って数値が改善した。また、「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値も 0.1 ポイント上昇した。特に、学校教育自己診断において教員が ICT を活用していると考えられる生徒の割合が、本事業導入前の 50%台から 95%にまで上昇したことは、ほとんどの教員が本事業で導入された機器を活用して授業を行っている結果であると考えられる。</p> <p>したがって、本事業では大幅な進路結果の増加までには至らなかったものの、生徒に ICT を活用した授業を提供するという観点においては大いに成果があったものとする。</p>